

北 総 の 力

～思いを伝えるチーム ほ・く・そ・う～



活用する力を育てる算数科学習

～ 香取市立栗源小学校の学力向上に向けた取組 ～

令和3年11月に、北総地区学力向上交流会が行われました。今年度は、動画配信とWeb会議システムを使用したオンラインでの実施となりました。ここでは、その中で発表のあった「学力・学習状況」検証事業協力校である香取市立栗源小学校の実践について、紹介させていただきます。

香取市立栗源小学校では、学習面の課題として、算数科で、基礎的・基本的な事柄は定着しているものの、知識を活用して問題を解決することや筋道を立てて考え、事柄が成り立つことを説明することに課題が見られました。

そこで、実態に応じた指導方法や学習形態を工夫し、既習の知識や考え方を活用して問題を解決させたり、筋道を立てて考え根拠を明らかにして説明させたりすれば、自ら考え表現する力が向上し、活用する力が育つであろうとの仮説を立て、以下のような実践を行いました。

○実態に応じた指導方法や学習形態の工夫

全国学力・学習状況調査や総合学力調査の結果を各学年で分析し、誤答、無解答の割合を取り出し、実態を把握しました。指導においては「全国学力・学習状況調査を活用したアイデア例」の指導案を単元一覧表に位置付けるなどの工夫をしました。指導形態の工夫としては、学級を少人数に分けて指導をしたり、複数の課題から児童が選択したり、前提調査の結果や前時の習熟度などから自分で学習のコースを選択したりできるようにしました。



全国学力・学習状況調査を全教員で解き、今求められる力の分析をした。

○筋道立てて考え、根拠を明らかにした説明

題意を捉えて立式したり考えを相手に分かりやすく伝えたりするために、図や数直線等を用いて考える授業を行ったり、根拠を明らかにして説明できるよう、低・中・高学年で目標（付きたい力）と話型を示しました。さらに、自分の言葉でまとめが書けるよう、低学年は穴埋め、中学年は考えのキーワード、高学年は自分の言葉で、という工夫を行いました。

これらの実践を通して、算数科に対する児童の意欲の向上がみられました。また、話型の活用や自分の言葉でまとめを書くなどの取組により、自分の考えを表現できる児童が増え、調査問題での無解答率が減ってきました。研修で調査問題の分析や授業づくりを行ったことで、教員の授業力の向上を図ることもできました。今後も、全教職員で共通理解を図りながら、どの子も「わかる」「できる」授業を目指して、学力向上に向けた取組を続けてほしいと思います。